



トピックス

創立五十周年記念式典 五十周年を祝う会 開催

令和4年10月22日(土)、八戸グランドホテルにて15時から八戸工業大学「創立五十周年記念式典」を執り行い、約180名の方が参加されました。

ご来賓代表として、前衆議院議長大島 理森 様から御祝辞を頂戴し、創立50周年にあたりシンボルマークを制作された村上 正剛 様に、坂本学長より感謝状を贈呈いたしました。16時30分からは「五十周年を祝う会」が開催され、参加者は思い出や互いの近況を語り合うなど親睦を深めました。終わりに校歌を斉唱し、万歳三唱で会を締めくくりました。



同窓会 会長挨拶



八戸工業大学同窓会

会長 福士 信雄

同窓生の皆様におかれましては、全国のそれぞれの地で活躍のことと存じます。また、日頃から同窓会活動にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

母校八戸工業大学におかれましては、同窓会活動に一層のご理解とご支援をいただいております。厚く御礼申し上げます。

さて、コロナ禍が続く、ウクライナ戦争が勃発し、この日本において銃撃による暗殺が起こるなど、予断を許さない世の中になってきていると感じています。しかし、この変化の中にあっても人々の営みは絶え間なく続き、新たな時代に対応した生活様式に向かう兆しも感じています。

今年度、母校は創立50周年を迎えた大きな節目の年となり、我々同窓生にとっても誇らしい慶びの年となりました。言うまでもなく同窓会の目的は、会員相互の親睦を図り、あわせて母校の発展に貢献することです。コロナ禍により規模縮小等いろいろな制限がある中でしたが、創立50周年記念式典には同窓会各支部長、分会会長、理事の皆様と出席し、記念事業に対しては、その支援のために同窓会から一千万円の寄付をいたしました。

さらに、記念誌には同窓会会長として、母校が50周年を節目に新たな挑戦に向かう時に、同窓会として通常の集う会が実施できるようにもオンラインの併用実施や、メタバースを活用した同窓会、同窓生の事業所の見学・インターンシップや学生募集、卒業研究への協力等々の情報を大学と共有するデータベースの作成等々、新たなチャレンジを考えていることを述べさせていただきました。

母校の50周年を期に同窓会も、大学、法人、各支部、各分会と協力し、副会長及び事務局、そして同窓の職員の方々の支援をお願いし、より活発な活動することを決意し、会報のご挨拶とさせていただきます。

令和4年度 理事会・定例代議員会

令和4年6月17日(土)30日の期間にて、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和4年度定例代議員会が紙面審議にて開催されました。理事17名中13名、代議員30名中22名の合計35名からの回答があり、これにより構成員の3分の2以上をもって本会が成立され、審議事項は過半数の承認を得たことから、議案が成立されたことを報告いたします。

〔議案〕 第1号議案 令和3年度事業報告・決算について

第2号議案 令和4年度事業計画・予算案について

第3号議案 第21回「八戸工業大学同窓生の集う会」と「八戸工業大学50周年記念祝賀会」との合同開催について

第4号議案 八戸工業大学50周年記念への同窓会からの支援について

第5号議案 次期役員理事、監事の選出について

第6号議案 「同窓会表彰推薦の依頼について」

〔報告〕 第1号 「各支部・分会の行事について」

理事 (氏名・卒業年度・卒業学科名)

会長(水交会)	福士 信雄	昭和51年度	電気
副会長(同窓教職員会)	浅利 能之	昭和51年度	電気
副会長(うみねこ会)	小玉 成人	平成07年度	電気
理事(蒼峰会)	小玉 吉美	昭和50年度	機械
理事(水交会)	岩本 明佳	昭和57年度	電気
理事(土木建築同窓会)	高橋 和雄	昭和55年度	建築
理事(学匠会)	原田 修	昭和60年度	エネルギー
理事(学匠会)	大坂 崇長	平成04年度	エネルギー
理事(感性デザイン同窓会)	石橋 宣貴	平成20年度	感性デザイン
理事(感性デザイン同窓会)	高橋 友宏	平成21年度	感性デザイン
理事(うみねこ会)	田村 友恵	平成27年度	システム情報
理事(東北支部)	奈良坂 進	昭和50年度	機械
理事(北海道支部)	山下 一寛	昭和62年度	建築
理事(秋田支部)	永井 誠仁	平成02年度	建築
理事(関東支部)	古館 仁	平成10年度	機械
監事(蒼峰会)	左館 直樹	昭和57年度	機械
監事(土木建築同窓会)	夏堀 大司	昭和58年度	土木

代議員 (氏名・卒業年度)

蒼峰会			土木建築同窓会			うみねこ会					
小笠原 寛	昭和51年度	安田 勝寿	平成03年度	大沼 宜浩	平成14年度	西田 和	昭和54年度	近藤 弘康	平成09年度	中野 龍輝	平成17年度
和田 俊	昭和54年度	近藤 弘康	平成09年度	小笠原大知	平成24年度	中村 史和	平成20年度	小笠原大知	平成24年度	中村 史和	平成20年度
松倉 芳彦	昭和60年度	浅利 壽信	昭和60年度	松倉 芳彦	昭和60年度	森越 達樹	平成28年度	松倉 芳彦	昭和60年度	森越 達樹	平成28年度
夏堀 祐樹	平成20年度	古川結貴	平成21年度	夏堀 祐樹	平成20年度	下斗米一真	平成30年度	夏堀 祐樹	平成20年度	下斗米一真	平成30年度
水交会			学匠会			感性デザイン同窓会					
菅野 義明	昭和50年度	大島 倫和	昭和61年度	柳町 竜也	平成23年度	菅野 義明	昭和50年度	大島 倫和	昭和61年度	柳町 竜也	平成23年度
梅津 正明	昭和51年度	掛端 英二	平成02年度	葛西 幸志	平成24年度	梅津 正明	昭和51年度	掛端 英二	平成02年度	葛西 幸志	平成24年度
松村 純一	昭和54年度	三浦 安則	平成03年度	鳥谷部華恋	平成29年度	松村 純一	昭和54年度	三浦 安則	平成03年度	鳥谷部華恋	平成29年度
阿部 恭也	昭和60年度	河原木 洋	平成09年度	高屋敷圭佑	平成26年度	阿部 恭也	昭和60年度	河原木 洋	平成09年度	高屋敷圭佑	平成26年度
河原木琢也	平成07年度	濱田 信吾	平成17年度	河原木琢也	平成07年度	濱田 信吾	平成07年度	河原木琢也	平成07年度	濱田 信吾	平成17年度

HAMS (メールマガジン) 会員登録のご案内

登録手順① 仮登録

普段お使いの携帯電話もしくはパソコンから、下記アドレス宛に空メールを送信します。携帯電話をご利用の場合、QRコードからのアクセスが可能です。

hams@alumni.hi-tech.ac.jp

登録手順② 本登録

空メールを送信した携帯電話もしくはパソコンに、自動で返信メールが届きます。返信メールの本文中にあるURLにアクセスすることで本登録が完了します。



いま・むかし物語

第一話「学食」

本号から始まりました「いま・むかし物語」は50年の歴史を持つ本学の今と昔を紹介するコーナーです。第一話は学食に注目！

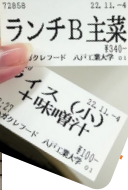
現在の学食

現在学食は4Fと2Fの2箇所にあります

4F学食「レインボー」
に行ってきました！



食券ゲット



1番人気の「から揚げ定食」
をいただきます！
ソースはオニオンを選択...
衣がザクっとしておいしい！

カレーも大人気！



約30年前の学食のようす

写真は体育館1F学食の様子です

いつも満席で毎日多くの学生・教職員が利用していました



◆今も噂される「肉どん」を調べました

2F「あかね食堂」で提供されていた料理。バラ焼きがごはんののっているイメージ。味は甘辛く少し濃い目でごはんとの相性は最強。聞き取り調査をしたところ、ほぼ毎日食べていた方や休憩時間にスポーツで勝負した後に食べる方など様々でしたが、多くの卒業生に愛された料理です。



◆そのほか人気の激安ごはん

ごはん80円、てんぷら30円を合体し完成する110円のとんぷら丼。そこにめんつゆをたっぷりかけお好みで唐辛子をふっていただきます。特別な日はてんぷらをダブルにして注文することも。それでも140円...リーズナブル！



◆現在、上記料理は残念ながら提供されていません。筆者(2015年度卒業生)入学時にはすでにありませんでしたが、ご来訪の卒業生から「今も体育館の学食あるんですか？」「学食のパーマのおばさんはまだいますか？」などご質問があり、愛されていた学食を調べてみたことが、今回のいま・むかし物語作成につながっています。

いま・むかし物語に関する感想や当時の学食の思い出、取り上げてほしいテーマを募集します。右に記載のQRコード(グーグルフォーム)からお気軽にお寄せください。





八戸工業大学 創立五十周年を祝して

機械系同窓会蒼峰会

会長 小玉 吉美

この度、八戸工業大学が創立五十周年という輝かしい歴史の節目を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

八戸工業大学は、昭和四十七年四月に開学以來、これからの日本を動かす専門的知識を持った多くの若者を世に送り出してきました。そして、若き卒業生達は幅広い分野で活躍をしておりますことは、ひとえに歴代の学長はじめ教職員ならびに関係各位の永年に渡るご尽力の賜であり、卒業生として感謝と敬意を表する次第であります。

さて、大学開学時の学科は、機械工学科と産業機械工学科、そして電気工学科の三学科でありましたが、四年後には土木や建築の学科が増設されました。後には、時代に合わせて学科の増設や、学部の増設などの改変を経て今日にいたっておりますことは周知の事であります。なお、今年は、機械系と電気系の学科も同じく創立五十周年を迎えることとなりますので、同科を卒業した者として感慨深いものがあります。そこで、機械系同窓会蒼峰会では、創立五十周年の記念としてシンボルマークのミニユメントを製作寄贈する計画を進めております。この原稿が、九月下旬の締め切りのため、それらの建立について、また、十月二十二日に行われる記念式典・祝賀会、並びに同窓生の集う会等の詳細を記せないところではありますが、盛大に催されるものと推察されます。

八戸工業大学が創立五十周年の節目を迎え、これから更なる歩みを進めることは、同窓生と

してこのうえない喜びであり励みともなっております。
どうか、この先も我が母校が更なる発展を続け、六十周年、百周年と栄えることを願ってやみません。
結びに、八戸工業大学のますますの御発展と、関係するすべての皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

同窓会関東支部

支部長 古舘 仁



私は現在、茨城県ひたちなか市にある日立Astemo株式会社で燃料噴射装置の設計をしています。茨城県といえば魅力度ランキングで最下位として常連ですが、住んでみると非常に良いところそんなことは感じません。気候はほどよく良いし、東京へのアクセスも電車、高速バスがありとても利便性が良いです。また、観光地も袋田の滝、ひたちなか海浜公園など魅力的な場所がたくさんあります。茨城県のことを紹介するのはこれくらいにして、同窓会関東支部の現状をお知らせし、皆さんのご協力をお願いしようと思いい記事を書かせていただきます。私は現在同窓会関東支部の支部長をさせていただいています。関東支部ではコロナ禍以前は年に1度、東京で集う会を開催していました。(コロナ禍になり3年開催できずにいます)現在、私たち役員は若手の役員不足に頭を悩ませています。現在の役員も多くはもうおじさん(皆さんすいません)で体力的にもきつくなつてとってきた

ので、そろそろ次の世代に役員を引き継いでいきたいと考えています。関東地区にお住いの若手同窓生の皆さん。我こそはという方はぜひとも同窓会役員へ立候補いただけますでしょうか。活動は手弁当となりませんが、皆さんの良い経験になると思っていますので、ぜひともご協力をおねがいします。

機械工学科 一回生 卒業 同窓会東北支部長 奈良坂 進



多い状況でした。そのお蔭で自分で工夫し考え対処し、代替品・ある物の活用で、対応力も自然に身についたと思います。全校生徒も少なかったことから、どの学部も関係なく、全員が知り合い・仲間の様な関係性で、一緒に様々な事に取組、一体感もあつたかと思えます。この様な経験のお蔭で、社会人になってから様々な困難な難問が生じてても、乗り越える事も出来たのだと感じております。
卒業後からは、同窓会活動をメインとして参加する事に成りましたが、お互いに会社の同僚に相談しにくい、仕事・家庭・自身についても、相談したり・教えてもらったり・一緒に悩んだり、大学を卒業しても同窓生の方々に、お互いに仕事をやり取りしたり・助けてもらったり、問題・解決策やヒントを教えてもらったりと、良い関係を続けております。

この度は、八戸工業大学の創立50周年を迎えられたことを、心よりお喜び申し上げます。さて、私が八戸工業大学に在学致しましたのは、50年前の八戸工業大学開学と同時にでした。大学在学中の4年間は、勉強や同級生との交流・下宿生活での社会人との交流・初めての一人暮らし等々により、自分自身の知識・考え方・取組・行動とあらゆる事が、少しづつ身に付き、人間形成面も育成頂いた、非常に大事な・大切な時期であり、有意義な生活を過ごしたと思いい起しております。
振り返れば、学部も機械工学と電気工学の2学部しか無く、女子学生もいない学校であり、建物もわずか学部棟程度で、大学の周りには建物も殆んど無く、極端に言えば山の中の郊外にぼつんと立つ学校で、近所には住居や人よりも、家畜の方が多く実態でした。交通事情についても、バスも数本しかない状況であり通学の便も悪く、非常に大変だったことを覚えております。今の大学とは違い設備も少しづつ増やしている状況で、何をすることも器材等も少なく大変で、出来ない事も

これからも、在校生・同窓生・先生方も含め、お互いに助け合いながら一緒に活動し、八戸工業大学の認知度アップや、今後もっと八戸工業大学が発展する為にも、我々同窓会も更に活動を活性化し、卒業生・在校生・職員も含め、全員が力をあわせて、八戸工業大学ここにありと、さらに知名度・評価もされていきますように！

末筆ながら、八戸工業大学の尚一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

Office Optimization
 オフィス・オブティマイゼーション/オフィスの最適化
 貴社の業務の本質を捉え、
 オフィスの最適なカタチを提案するのが仕事です。

株式会社 金入

〒039-1121
 青森県八戸市卸センター二丁目4-12
 TEL 0178-28-2871 / FAX 0178-20-2764
 http://www.kaneiri.co.jp

水交会

水交会活動報告

令和4年度水交会総会

令和4年10月22日（土）八戸グランドホテルにて、令和4年度水交会総会が開催されました。始めに令和3年度収支決算報告及び事業計画案、会則変更及び役員改選について審議した結果、異議なく了承されました。



令和3年度「水交会賞」表彰式

令和4年3月18日（金）及び同年4月13日（水）に八戸工業大学にて令和3年度「水交会賞」表彰式を行いました。水交会賞は、学業成績が特に優れている学生や課外活動において特に優秀な成績をおさめた学生を表彰するものであり、水交会在学生応援事業として平成28年度総会にて承認された制度です。令和3年度は7名の学生が表彰されました。



教育機器寄贈

令和4年11月23日（月）、在学生の教育環境整備を目的として、工学科電気電子通信工学コースに大型提示装置（65型液晶ディスプレイ）1台を寄贈しました。

同窓生に贈る言葉

教授 関 秀廣 先生令和5年3月退職予定
「八戸工業大学の強みと魅力」



八戸工業大学の創立50周年を迎えた今年が、私にとつて勤続39年、最後の年となりました。この間パブル景気、リーマンショックと激しい景気変動があり、未曾有の東日本大震災があり、パンデミック感染症の蔓延が東と波乱万丈の大学生活でした。そうした中、自身が取り組んだ研究課題に関する科学技術振興機構の「大画面フラットパネルディスプレイの創出」を始めとして、国の省庁が進める地域の産学官連携事業3件を主体的に司ることができました。これらは、本学が北東北で唯一の私立理工系大学として、私の拠点としての役割を果たし続けてきたこと、私立大学であるが故に有している活動の自由度を持ち得たからだ実感しています。加えて同窓生や地域の方々によるご支援があればこそ取り組めたことでした。本学の大きな強みは、こうした地域に根ざした連携力とコンバクトであるが故の多分野の教育研究組織力だと思います。これが本学の魅力となっています。今後に期待したいと思います。

OB・OGだより

上野 毅 さん

2001年3月大学院博士後期課程
電気電子工学専攻修了（関研究室）
現在：八戸工業大学第一高等学校 工業科長

平成13年3月に大学院博士後期課程を修了しました。社会人入学だったこともあり、時間確保が大きな問題でした。仕事を18時に切り上げ、家に帰って食事をして、19時に研究室に行くようにしました。研究室では、指導教員の関先生や学生との打ち合わせを行うことから実験を始めました。遅くとも午前1時には家に帰るという生活を3年間続けました。関先生には勤務時間外にも関わらずご指導いただき感謝しております。大学院を修了してからは生活が大きく変わったわけではありませんが、考え方が

「自分でやりたいと思ったなら、意外とやれる」というように変わりました。ここで学んだ経験を生徒にどのように還元するかを考えるようになりました。他ではできないことをやりたいと思ひ、今は生徒と宇宙を目指しています。生徒が製作した金属板が、令和4年2月20日に米国からシグナス補給船運用17号機で、国際宇宙ステーションに打ち上げられました。現在は、船外暴露ポートに取り付けられ地球を周回しています。宇宙なんて遠い夢のような話だと思っていました。打ち上げることができました。夢は、夢ではないというのを生徒と共有できたと思っています。今、日本航空宇宙学会でジュニア会員制度推進委員会の仕事もしております。

最後に私が研究室で学んだことは、「工学は今と未来（夢）を結ぶことである」ということです。この考えにたどり着くことができたことは、関研究室だったからこそ思っています。



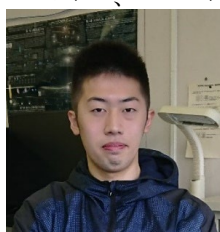
同窓生としての抱負

今 亮人 さん

2022年3月電気電子工学卒業
就職先：株式会社NTTフアシリ（石山俊彦研究室）
ティーズ東北支店

私は、八戸工業大学で電気電子工学分野に関わる基礎から応用まで多くのことを学びました。また、大学の学びを活かし、資格にも挑戦した結果、第一種及び第二種電気工事士を取得することができました。卒業研究では石山俊彦研究室に所属し、「自然換気を用いたデータセンターの熱解析」について研究しました。ソーシャル・ネットワークング・サービス(SNS)や電子商取引(EC)などで需要が増加しているデータセンターの冷却に自然換気を用いることで、電力の削減を目指す技術です。既に米国のメタ(旧フェイスブック)やグーグルなどが採用しており、私はシミュレーションをもとに省エネルギー効果を検討

しました。課外活動では陸上競技部に所属し、自分で練習メニューを考え日々の練習に励みました。その結果、大会で自己ベストを出すことができました。八戸工業大学の4年間で振り返ると、様々な経験を通して自身を成長させることができたと思います。卒業後は社会人としての自覚を持ち、日々の業務に責任を持って取り組みたいと思います。



学科近況報告

大学院工学研究科
電子電気・情報工学専攻主任
工学部工学科長補佐 石山武 先生

工学部改組に伴い、今年度より(旧)電気電子工学科から(新)工学科電気電子通信工学コースとして新たなスタートを切りました。今後、地域の課題解決に貢献できるエンジニア教育に力を注いでいきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

(訃報) お悔やみ申し上げます。
名誉教授 佐藤 正毅 先生
令和3年10月21日逝去

「関 秀廣先生を囲む会」開催!

令和5年2月25日(土)13時より
詳細&参加申込はこちら→



CONNECT TO THE FUTURE
ワイヤーハーネスで未来へつなぐ

民生機器・情報通信・産業機器・車載ワイヤーハーネス製造

株式会社 岩本電機
IWAMOTO Electronics Company.

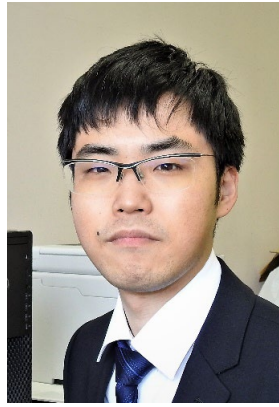
代表取締役 岩本 明佳 (昭和58年3月 電気工学科卒)

〒028-7901 岩手県九戸郡洋野町種市 第13地割41番25
TEL 0194-65-3930 FAX 0194-65-3899

野口巧巳研究室の紹介

最新の技術・知見を用いた
コンクリートの耐久性評価

助教 野口 巧巳
(2022年度着任)



本研究室では、コンクリートの性能や耐久性、劣化現象の地域性に関する研究を行っており、特に凍害と呼ばれる劣化現象を中心的に対象としています。コンクリートの凍害とは東北や北海道などの寒冷地では、コンクリート内の水分が凍結と融解を繰り返すことによりひび割れやスケリーングと呼ばれる表層の剥落が発生し、強度や耐久性の低下、美観の悪化などを引き起こす劣化現象です。そのため、構造物の長期利用の観点から凍害の発生リスクが高い地域では凍結融解作用に対する抵抗性の高いコンクリートを使用することや凍害を念頭に置いた維持管理、補修、補強が重要となります。

凍結融解抵抗性の評価は実験室での促進凍結融解試験によって評価しているのが現状ですが、この試験は多少の条件変更で試験結果が大きく変動することがあることに加え、専用の装置や3か月程度の期間が必要となることなどから簡易的に評価することが難しい項目です。そこで、その試験結果に対して人工知能(AI)を用いて予測し、凍結融解抵抗性の評価を行うことを目指した研究を現在取り組んでいます。

また、近年の研究で明らかとなった乾燥による耐凍害性低下現象を考慮し、温湿度条件や材料の耐凍害性をもとに劣化を予測する手法を提案し、その結果を用いて凍害の地域性の評価を試みる研究も行っています。

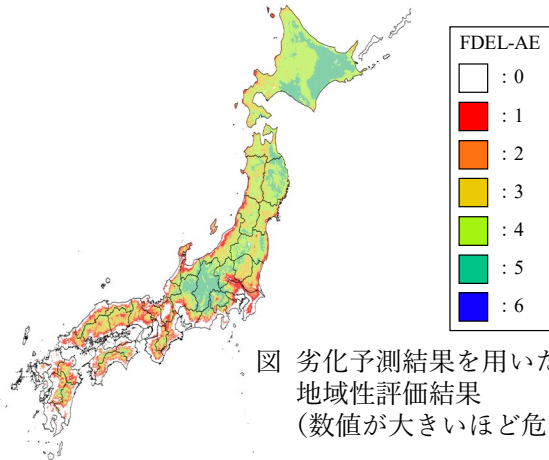


図 劣化予測結果を用いた凍害の地域性評価結果
(数値が大きいくほど危険)

学科ニュース

在学中二級建築士合格！

加賀 輝 君

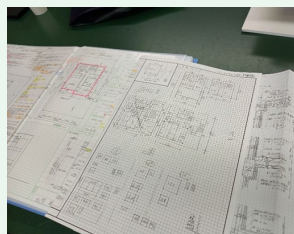
2020年度から工業高校建築卒の学生は大学在学中に二級建築士試験を受験できるようになりました。それに伴い工業高校の教員から重点科目のヒアリングを行い、学科試験四科目の中から特に「建築法規」を手厚く指導することにしました。このたび合格した加賀君(十和田工業高卒)は在学中受験対策の一期生で、2年時に3年生の「建築法規」の講義を先行して受けて、3年時での受験体制を整えました。本人の自主的な勉強を基本として、大学としては模試の実施や直前の建築法規特講などでサポートして、学科試験に見事合格しました。その後の製図試験は日建学院に通いより確実な対策を行い二級建築士合格に至りました。学生コンペにも積極的に応募する加賀君には建築士というよりも建築家を目指して、大学で幅広い教養を身につけてほしいと願っています。来年度も合格者が続くように更なる指導に努めます。

ICT施工の現場見学

建設業の土木分野では、ICT-Constructionと呼ばれるICT(情報通信現実)化が急速に発展しています。ICT-Constructionは、ICTを土木における測量、設計・施工管理、施工、検査の全工程で導入し、3次元データを一貫して使用することによる生産性の向上が目的です。今回は3次元レーザーキャナー測量・測量から得られた現況データ処理・3D測量・ICT建機について学びました。これからさらに普及していく最新技術を(株)小原建設様の主催によるICT施工見学会で最新の施工技術を見学しました。



ICT建機を体験する学生



二級建築士に合格した加賀君→



学匠会

プロジェクト紹介 しまもりSDGs実践プロジェクト について

工学部 工学科長 星野 保
学匠会の皆様、本年より生命環境科学コースを含む工学科の学科長になりました星野保です。2年前より学内横断プロジェクトとして担当する「しまもりSDGs実践プロジェクト」について紹介します。

SDGsについて、卒業生の皆さんも様々な機会にこれを目にすることが多いと思います。工学系大学の観点から見ると、これは新たな世界標準に向けた開発指針であり、一斉に開発が始まったと考えることができます。

本学でSDGs活動を実践するに当たり自分たちのサイズに合った小回りの利く場所を検討し、八戸市島守地区を対象としました。島守盆地は周囲を山に囲まれ、この中に居住や農地・林地がまつまつた典型的な日本の山村です。また、他の地域と同様に高齢化・人口減が進行しています。一方、豊かな自然環境と地域独自の文化が存在し、幅広い分野での活動が想定できます。こうした本学の事情に合わせた地区の規模に加え、同じ市内に存在し、講義の合間に駆け付けられる。通えるフィールド」としての距離が適切と考えました。このため本学は、島守地区が持続可能な社会を構築する検証に適した地域と考え、地域活性化事業を推進するふるさとルネッサンスの協力のもと、SDGsの達成を目指した教育・研究

活動を実施しています。

学内で教育・研究活動を募集し、現在9課題が採択されています。その内訳は、地域でのライフラインの維持・エネルギーの利活用に関連した3課題、生態系・環境の評価と利用に関する2課題、さらには地域文化やまちづくりのための人材育成につながる4課題までの幅広い取り組みを対象として、令和2年7月より3年間のプロジェクトとして発足しました。この中には、本コースの田中義幸教授が主導する「しまもりの生物多様性をモニターしよう」や、OBでもある高橋晋教授が参加する「休耕田を活用したバイオエタノール燃料の作成とその活用」や、鮎川恵理准教授や私も参加する地域の農家や八戸酒類と共同した無農薬米による日本酒醸造などがあります。

今後も様々な形で本プロジェクトを見聞きすることがあると思います。是非ともご支援宜しく願います。また、SDGsにご関心のある方は、是非「一報ください。ともに島守で検証しませんか？」



島守地区全景

研究室紹介

小林研究室

生命環境科学コース

教授 小林 正樹

本学に来て、今年で19年目を迎えました。八戸はサバ、イカの漁獲量が多く、着任してから自分でしめ鯖やイカ塩辛を作って食べたりました。大変おいしい。私は海なし県で長寿県とも言われる長野県出身なのですが、こんなおいしい海の幸があるのどうして青森県の人たちは短命なのだろう？と不思議に思っています。

研究室の紹介をします。私の専門は化学工学で、その中では移動現象論、反応工学を得意としています。着任当初は、レーザー光の発振や、フォトニクスデバイスの基盤材料として用いられる金属酸化物の単結晶をその融液から育成するプロセスの数値シミュレーション、特に輻射伝熱の影響について取り組みました。

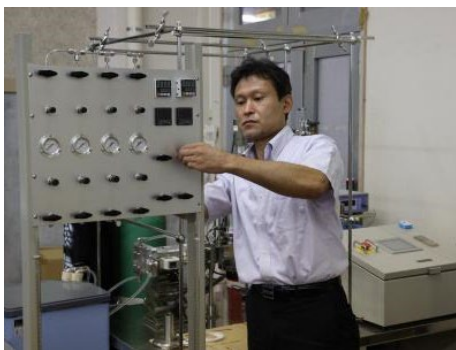
その後、2、3年経った頃から、マイクロ波を化学反応の加熱源として利用する研究をはじめました。マイクロ波というのは電磁波の一種で、電子レンジで食品を加熱するの用に用いられているのです。現在は、このマイクロ波を用いて、

メタン)を使用する火力発電所、およびコークス(石炭)を鉄鉱石の還元剤として用いる製鉄所です。これらから排出されるCO₂を再度資源化してメタンに変換することができれば、CO₂削減という意味でもエネルギー供給という意味でも大きな貢献ができるのではないかと考えています。

物理化学や熱力学に、エントロピー増大の法則というのが出てきます。エントロピーはよく、「乱雑さ」という風に解釈されます。つまり、世の中(宇宙)の乱雑さは増大する、という法則です。エネルギーは最終的には熱となりどこかに逃げて使えなくなってしまう、エネルギーがバラバラになって散らばってしまうというイメージです。これは世の中(宇宙)で常に生じています。電気でもガソリンでも最後は熱になり、どこかへ消えてしまいます。核融合が生じている太陽も例外ではありません。数十億年後には燃え尽きます。その結果、いつか宇宙は死んでしまう、というのが熱力学の考え方です。広大な宇宙で、とりあえず我々は地球のことだけ心配すればいいと思いますが、地球が死んでしまう日が来ないようにしたいものです。

会員の皆様のお役に立てそうなことがあります。もしたらお声かけください。

地球温暖化の原因である二酸化炭素CO₂を、天然ガスの主成分であるメタンに変換する研究にとりかかっています。これにより、本学はじめ世界中で叫ばれているカーボンニュートラルを達成する一翼を担おう、ということでのための装置を作製しており、もうすぐ実験を開始できそうなところ。特に、産業界におけるCO₂の最大の排出源は、化石燃料(主に



株式会社ザックス
<http://www.zax.co.jp>

理化学機器、放射線関連製品、試薬、エアフィルター、計量証明、化学工場及び研究施設の運転・保守、等

八戸営業所 八戸市長根4丁目17-7
tel:0178-73-3620 fax:0178-73-3621

事業所:東通(本社)、六ヶ所、大間、八戸弘前、青森、北海道

株式会社ザックス

うみねこ会

■ 学科ニュース

ETロボコン2022全国大会 に出場決定

9月23日に開催されたETロボコン2022東北地区大会において、工学部システム情報工学科山口広行准教授の研究室チーム「ヒット&ラン」が、「総合準優勝」「ゴールドモデル賞」「IPA賞」を受賞し、5年ぶり5度目となる全国大会への出場権を獲得した。

この大会は、指定されたロボットに各チームが分析・設計したソフトウェアを搭載し競うもので、今年は全国から201チーム（内、企業は92チーム）が参加。山口研究室はETロボコンへの参加を通してソフトウェア開発技術者の育成を目指しており、同大会には2008年より出場。今年は、

昆野幹人君
(岩手・遠野高)
進藤胤真君
(十和田工業高)
柳沢元就君
(八戸工業高)
が参加した。



■ OB・OG近況報告

名久井 颯太(令和2年度卒業生) 多摩川精機(株)

私は今、多摩川精機株式会社に就職し、研

修もかねて長野県の飯田市というところで働いています。業務の内容は主に社内システムの開発です。入社してすぐは開発ルールや社内独自フレームワークの使用など、学生時代には経験しなかったことが多く大変でしたが、先輩方に助けていただきながら業務を行い、少しずつですが増えることができました。最近スマホアプリの開発や既存システムをリニューアルするために一から開発を行うなど、より深く開発に関わることができるようになりました。大変なことは様々ありますが、開発したシステムが本番運用されることごとくうれしく次も頑張ろうという気持ちになります。

休日はコロナの影響もあり家でゆっくりと過ごすことが多かったです。最近では外出自粛なども収まってきたので、せっかくなので八戸に戻る前に信州にいるメリットを活かして様々なことを体験したいと考えている。計画を立てています。仕事も趣味も楽しめるようにこれからも頑張ります。



畑中 佑紀奈 (令和2年度卒業生) 北日本コンピュータサービス(株)

私は北日本コンピュータサービス株式会社で働いています。2021年の4月に入社してから2つのプロジェクトに携わっており、現在は自社製品のビジネスアプリ開発を行うプロジェクトに配属されています。私の所属する部署は従来のユーザーフォールでの開発ではなくアジャイルでの開発を主にしています。アジャイルはお客様と一緒に機能の開発を行うため、お客様の意見をすぐ取り入れられ、柔軟な機能の改修を行うことができたりお客様のニーズに最大限応えられることが大きなメリットです。その中でお客様に満足していただける機能を創意工夫しながら作ることにやりがい・楽しさを

感じています。業務で使っている言語は、Java, JavaScript, Pythonと様々で、大学時代には扱ってこなかったものばかりです。ですが、大学時代に培ったプログラムの基礎知識と調べる習慣はどんな言語の習得にも役立ちました。休日には家に引きこもって料理をしたりゲームをしたりしていることがほとんどです。今はAWSの資格取得に向けた勉強もしています。就職を機に縁もゆかりも友達もいない秋田県で一人暮らしをしています。会社の先輩上司の方々、離れていても遊びに付き合ってくれる友人達に恵まれ充実した毎日を送っています。

畑林 銀河 (令和2年度卒業生) (株)アイシーエス

私は株式会社アイシーエスで働いています。今はシステムの開発を行う部署に所属しており、設計書をもとにしてプログラミングやテストなどチームの中で行っております。学ぶことが沢山あり、上司や先輩方から開発に関する技術を吸収して身につけている日々を過ごしています。入社2年目からは、新人の教育役として仕事を教える役割も務めています。システムの開発以外にも、仕事を通して社員と関わりながらいろいろなことを学んでいます。休日は、料理をすることが楽しく、作った料理の写真を撮って、撮った料理について話題に挙げて、いつも職場で盛り上がりつつあります。

大学での学びが基礎となつて社会生活に活かしていると感じることが多々あります。大学での日々を忘れて、これからも頑張りたいと思います。



うみねこ会の活動として、令和2年度に作成したシンボルマークを印刷したエコバッグを令和3年度卒業生と令和4年度入学生へ配布しました。この活動は、在学生・卒業生のうみねこ会の認知度を向上させるために実施しています。今後も、この活動を継続し、さらには様々な取り組みを実施予定です。



屋外大型LEDビジョン広告

テックビジョン

クリエイティブデザイン事業部

広告主募集中!

リフォームバレス
ドルフィン八戸店

新井田四本松

青森県庁機務ビル
(消防本部前交差点)

弘前パークホテル

Technol

〒八戸市城下1丁目10-15 Tec-LABO 1F

☎ 0120-478-162 担当: 藤藤、木村

感性デザイン同窓会

感性デザイン学科と地域の繋がりに

感性デザイン学部 感性デザイン学科
教授 高橋 史朗

八戸工業大学に感性デザイン学部感性デザイン学科が創設されたのは2005年。それから数年間は毎日のように何かあったらしいことが起きていて、その対応に追われる日々でした。1期生の学年進行に伴い、毎年新規開設科目が増えるだけでなく、学校行事や就活も新学科が初めて経験することだったからです。冷や汗をかくことも多くありました。どうやら落ち着いたのは、初めて卒業生を出した2009年の春頃からだったと思います。

その年には最初のカリキュラム改正があり、デジタルデザイン分野が大幅に拡充されたのですが、それとともに、学外でのデザイン活動を増やす必要がありました。本学にデザインを学ぶ学科があるということすら、地域企業にはとんと浸透していない時期です。協働の実践は難しく、数少ない機会を手探りで進めたことが思い出されます。それでも七戸の電気バスラッピングや桃川の清酒ラベルデザインといったいくつかの成果が得られたのは、当時の学生が必死に努力してくれたためです。

地域との協働が加速化していったのは、2013年ごろからです。学生と教員の経験値が増すとともに、実績豊富な教員が加わり、実践的な活動機会が飛躍的に増加しています。八戸市内だけではなく、おいらせや十和田、五戸など、近隣市町村へ学生が出向くことも珍しくなくなりました。学生が地域の人々との関わりの中でコンテキストを理解し、期待に応える姿が目立ってきたのです。今の感性デザイン学科は「ここできれない」「ここだからできる」デザイン活動を実践する学科として評価を受けています。象徴的な事業をいくつか紹介してみよう。

八戸の中心街にある青い森信用金庫の本店にある壁画は、市街地の活性化を目指して学生が制作したものです。コンペ形式での審査を経て採用された作品が表通りを彩っています。



青い森信用金庫 壁画除幕式

大館地域の底力事業の一環で新井田小学校と協働した事業では、町内に設置された歴史看板を子どもたちと一緒に調査し、地域の方の説明をもとに、子どもたちがデジタルでそれらを紹介する作品作りを支援しました。



新井田小学校との活動フィールドワーク



表通りからの光景

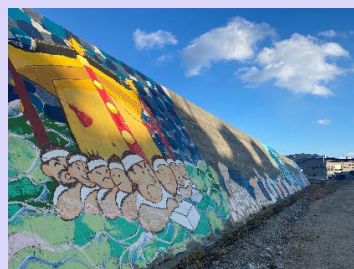


山田町防潮堤 壁画制作1



デザインサポート

岩手県山田町では震災の後に巨大な防潮堤が整備されました。震災前には見えていた海を目にすることができなくなった地域の人の思いを受け、学生たちがいま、数年計画で防潮堤に壁画を描いているところですよ。



壁画制作2

他にも多くのデザイン活動が地域で実践されていますが、いづれもこの地域の人々との関わりの中で、大学にできることを模索しながら行われています。八戸工業大学は本州の東北端に位置する大学です。中央の大学とは立場が自ずから異なります。地域の人の期待に応え、デザインで貢献することをこれからも約束します。学生とのかげがえのない資源を活かすとともに、地域にデザイン力のある人材を輩出する。感性デザイン学科はまもなく20周年を迎えますが、これからもこの地域でしかできない、この地域だからできる教育活動を実践していきます。

はっち2階種差海岸コーナに絵を描いています。

八戸市中心部にあるはっちの2階、種差海岸展示コーナのガラス部分に学生が絵を描いています。はっちより館内リニューアルの一環として授業で改修案を考えたことから派生した企画です。企画は2020年11月から始まり、定期的な書き換えを行う予定で現在のものは2作目になります。2作目が完成したのは今年の8月。6人の2年生が下絵作成、窓への描画を行いました。

今後も書き換えを行う予定なので中心部に来た際にはぜひともはっちに寄って、学生の作品をご覧ください。



令和3年度（2021年度）事業報告・収支決算報告

2021(令和3)年4月1日～2022(令和4)年3月31日

事業報告

《本部》

月日	事業内容
令和3年6月 3日(木) ～6月21日(月)	第1回理事会・定例代議員会 (紙面開催)
令和3年6月26日(土)	理事・代議員の意見交換会 (オンライン)
令和3年10月2日(土)	第20回同窓生の集う会(オンライン)
令和3年12月	同窓会報発行
令和4年2月21日(月) 3月 7日(月)	3役会議(オンライン)
令和4年3月18日(金)	学位記授与式、第2回理事会

《支部》

月日	事業内容
令和3年5月	関東支部定例幹事会(オンライン)
◆以下役員会・総会は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。 ・北海道支部総会 ・北海道支部道東部会総会(十勝会) ・北海道支部道南部会総会 ・東北支部総会 ・関東支部役員会、総会 ・秋田支部役員会、総会	

《分会》

月日	事業内容
令和3年4月15日(木)	水交会賞表彰式
令和3年5月18日(火)	蒼峰会三役会議・監査
令和3年5月25日(火)	蒼峰会定例総会
令和3年8月24日(火) ～8月31日(火)	水交会役員会(メール審議)
令和3年9月13日(月) ～9月30日(木)	水交会総会(水交会Web Page)
令和3年9月17日(金)	新型コロナウイルス感染防止対策品寄贈(水交会)
◆以下幹事会・役員会・総会は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。 ・学匠会幹事会 ・土木建築工学科同窓会役員会 ・感性デザイン同窓会幹事会、総会	

決算報告

《収入の部》

(単位:円)

項目	本年度予算額	決算額	増減
会費	5,420,000	6,065,365	645,365
会報協力費	500,000	666,971	166,971
広告収入	120,000	735,365	615,365
雑収入	1,766	1,514	▲252
前年度繰越金	11,231,228	11,231,228	0
総計	17,272,994	18,700,443	1,427,449

《支出の部》

(単位:円)

項目	本年度予算額	決算額	増減
会議費	200,000	0	200,000
旅費交通費	1,000,000	0	1,000,000
集う会経費	300,000	77,822	222,178
印刷費	2,500,000	2,424,296	75,704
通信費	50,000	61,900	▲11,900
支部関係	1,350,000	10,366	1,339,634
運営費関係	30,000	3,520	26,480
分会助成費関係	1,200,000	271,414	928,586
業務委託費	66,000	66,000	0
積立金	0	0	0
慶弔費関係	60,000	33,595	26,405
卒業記念品	280,000	300,000	▲20,000
記念事業支援費	3,000,000	3,000,000	0
会則3・4条関連事業費	100,000	0	100,000
予備費	5,000	0	5,000
次年度活動費	7,131,994	12,451,530	▲5,319,536
総計	17,272,994	18,700,443	3,892,087

次年度繰越金

収入(決算額)－支出(決算額) = 14,168,148円

《特別会計》

(単位:円)

項目	本年度予算額	決算額	増減
当期積立金	0	0	0
前年度繰越金	20,000,000	20,000,000	0
計	20,000,000	20,000,000	0

令和4年6月27日 監事 左館 直樹

監事 夏堀 大司

- 発行時期: 令和5年12月予定 (同窓会報第29号)
- 発行部数: 約13,500部(予定)
- 広告規格及び、金額(フルカラー) 広告1枠(6cm×4cm) ¥10,000 ※他サイズは、ご相談ください。
- 申込期限: 令和5年9月30日

広告掲載
のお願い

同窓会では、「同窓生の集う会」開催など各事業を行っております。年に一度発行する同窓会報もその事業の一環であり、本会の活動内容や大学の近況等を発信するメディアとして、毎年多くの同窓生にご愛読されています。一方で、会報発行に掛かる経費(印刷および発送費)は同窓生数の増加とともに増え続けています。そこで、会報発行に掛かる経費を広告収入より充当したく存じます。つきましては、経費ご多端の折とは存じますが、同窓会報の永続的な発行のため、皆様より広告掲載のほど、よろしくごお願い申し上げます。

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用下さい)

本部事務局(学務部 学生支援担当)
TEL:0178-25-8027 メールアドレス:dosokai@hi-tech.ac.jp

機械工学科・産業機械工学科・機械情報技術学科
TEL:0178-25-8010 メールアドレス:dosokai-m@hi-tech.ac.jp

電気工学科、電気電子工学科、電子知能システム学科、電気電子システム学科
TEL:0178-25-8020 メールアドレス:dosokai-e@hi-tech.ac.jp

土木工学科・環境建設工学科・環境建築工学科・建築工学科・土木建築工学科
TEL:0178-25-8030 メールアドレス:dosokai-d@hi-tech.ac.jp

エネルギー工学科・生物環境工学科・バイオ環境工学科・生命環境科学科
TEL:0178-25-8050 メールアドレス:dosokai-p@hi-tech.ac.jp

システム情報工学科
TEL:0178-25-8080 メールアドレス:dosokai-i@hi-tech.ac.jp

感性デザイン学科・創生デザイン学科
TEL:0178-25-8070 メールアドレス:dosokai-k@hi-tech.ac.jp

同窓会事務局から

●同窓生の皆様へ
同窓会報があたりらしい住所に届かない、住所変更後送付先を変えてほしい等につきましましては、左記の同窓会本部事務局まで、電話またはメール(氏名、現住所、学籍番号または、卒業年度と学科)をご連絡いただきますようお願いいたします。

●ご家族の方へ
本誌同窓会報をご家族の方が見て同窓生本人が見ていないことがあるようです。お手数ですが、ご子女に了承いただき同封の表面にご子女の現住所等必要事項をご記入のうえ、フリーFAXにてご送付ください。

1992(平成4)年3月に同窓会報第1号(創刊号)を発行し号を重ね、今回も約13,500名の会員にお届けすることが出来ました。会報を通して、新たな会員相互の親交が生まれたというお話を伺いますとき、発行継続が同窓会の本来の目的に叶っていくものと考えております。今後、会報の発行を維持していくための費用として、皆様には協賛金のお願いをさせていただきます。協賛いただいた方におかれましては、お名前を次号に掲載させていただきます。掲載をご希望されない方は、恐れ入りますが、同窓会事務局までご連絡ください。次号もまた、皆様からの様々なご意見に耳を傾け、魅力ある紙面づくりを取組んでいきます。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

協賛金のお願い

同封物の見方

- 1 あなたの整理番号です。
- 2 現在、住所がわからず会報誌をお届けできない方々の名簿です。ご存じの方はフリーダイヤルまたはフリーFAXまでご本人よりご連絡いただけるようお伝えください。
- 3 現在、同窓会でお預かりしているあなたの情報です。変更のある方は、以下のいずれかをご利用ください。
- 4 協賛金の振込用紙です。ご協力のほどよろしくお願いします。

①QRコード ②フリーダイヤル ③フリーFAX

アプリ決済ご利用できます



お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-10-9899 (内線92)
平日 10:00~17:00

フリーFAX 0120-10-9184(24時間受付)

〒121-0831 東京都足立区舎人 3-11-26

同窓 太郎 様

(差出人) 八戸工業大学同窓会
☎ 0120-10-9899 FAX 0120-10-9184
平日10:00~17:00
(整理番号 92-35001001) 1

同窓 太郎 様には、前年度、協賛金 2,000 円をいただき誠にありがとうございました。協賛いただいた方のお名前を次号に掲載させていただきます。掲載をご希望されない方は、恐れ入りますが、本部事務局までご連絡ください。

▼住所未確認のためご本人へご伝言ください。(敬称略)

35001002 浅田 朋高様	35001031 源波 徳高様	35003002 浅田 利光様
35001005 土本 修様	35001033 宮本 了二様	35003006 土本 馨様
35001008 今野 寧々様	35001034 小笠原 三知様	35003008 高橋 寧々様
35001010 井齋 幸枝様	35001036 大木 正道様	35003009 関口 幸枝様
35001011 齊藤 浩延様	35001038 内山 和彦様	35003011 櫻井 光崇様
35001016 佐藤 和史様	35001042 上女鹿 逸雄様	35003012 梅津 壽和様
35001022 高山 直樹様	35001044 石田 智章様	35003015 小澤 正紀様
35001026 中村 良成様	35001046 中村 清一様	35003016 鈴木 亨様
35001029 保田 寛實様	35002003 浅田 忠男様	35003017 竹内 修様
35001030 会枝 康子様	35002004 土本 健之様	35003018 米田 一右様

登録内容をご確認ください

お支払方法
お申し込みはこちら
お支払方法は郵便局
ネットバンキング/電子マネー(WEBサイトへ) →
アプリ決済

登録確認
住所変更等
住所未確認者・逝去リスト

QRコード

2

3

4

払込取扱票
01201605749893 金額 2000
八戸工業大学同窓会
同窓 太郎 様
〒121-0831 東京都足立区舎人 3-11-26
整理番号 35001001

払込票兼受領証
01201605749893
八戸工業大学同窓会
同窓 太郎 様
〒121-0831 東京都足立区舎人 3-11-26
整理番号 35001001